

平成23年度事業報告書

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

I. 事業の概況

当事業年度は当初計画していた事業に加え、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響により、前年度末に予定していた一部イベントの中止に伴うフォロー活動や、被災地の復興に寄与すべく、被災地の幼稚園、小学校、避難所等に対して画材やスポーツ教材の寄贈を行ってきました。

また、財団設立（平成18年）から5年目を迎えた当事業年度は、これまでの5年間の事業活動を振り返ると共に、スポーツ振興やスポーツ文化向上にかかわる社会的動向を踏まえ、公益事業の一層の充実に向けた「事業の更なる質向上」と「新たな価値づくり」を基調とする向こう5年間の中期事業方針を策定しました。以上の活動を実施しつつ、年間を通しては、各事業とも着実かつ円滑に実施することができました。

II. 事業別の状況

1. 助成金事業

(スポーツチャレンジ研究・スポーツチャレンジ体験助成事業)

スポーツ医科学・予防医学等の研究及びスポーツにかかわる体験への支援・助成を、第5期生として、研究14名、体験14名に対して行いました。

前年度第4期生へのフォロー活動として、3月末から4月中旬にかけてエリア別成果発表会（計5回）を実施するとともに、第5期生からは四半期報告に加え、8月から11月にわたり中間報告会（計7回）を実施しました。

また、1年間のチャレンジ成果の発表を3月16日から18日（3日間）に開催した第5回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングにて実施しました。

なお、平成24年度助成は、研究97件、体験53件の応募の中から、本年1月の最終選考を経て、研究12名、体験10名の第6期生を決定しました。

2. 奨学金事業

(海外留学生奨学金・外国人留学生奨学金 給与事業)

スポーツにかかわる学問研究を目的とした留学生に奨学金を給与する「海外留学生奨学金」及び「外国人留学生奨学金」を合計6名に対して行いました。

なお、平成24年度奨学金給与は、海外留学生奨学金3件、外国人留学生奨学金14件の応募の中から本年1月の最終選考を経て、海外留学生2名、外国人留学生2名を決定しました。

3. 表彰事業

(スポーツチャレンジ賞 表彰)

スポーツの振興及びレベル向上に貢献した個人・団体を表彰する「第4回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞」は、メディアや各種競技団体等を通じて候補者を公募し、推薦候補の中から選考委員会の審査を経て、スポーツチャレンジ賞功労賞として下記2氏を選出しました。この表彰はスポーツ振興において「縁の下の力持ち」に焦点をあてた表彰として徐々に認知されつつあり、「チャレンジの尊さ」の訴求・浸透を深めることができました。

- (1) スポーツ写真家の草分けとして、スポーツ報道の機会拡大に貢献された岸本健氏
- (2) 独創的な表現でスポーツの魅力を伝え、スポーツ写真家の育成・環境整備にも尽力された水谷章人氏

4、青少年健全育成事業

(ジュニアヨットスクール葉山の運営)

ジュニアヨットスクール葉山では、従来のセーリング指導カリキュラムに「自然・水辺体験学習」のプログラムを加え、海・水辺・海事に関する知識向上と安全啓発を行いました。とりわけ東日本大震災を受け、地震・津波を想定した避難訓練や海洋・気象知識などの学習をはじめ、日常活動での安全管理の徹底にも努めてきました。

また、より質の高いスクール運営や保護者の理解促進を図るため、本年3月に実施したジュニアヨットスクール葉山修了式と合わせて、保護者懇談会を実施し、スクールの主旨説明や意見交換を行いました。これらの施策に対して、保護者の方々からは、逞しさや自発性、協調性など子供たちの意識、行動の変化を実感した旨の意見をいただくなど、子供たちの成長に寄与する評価に裏付けられた一定の成果をあげることができました。

更に、本年3月に開催した「第20回セーリング・チャレンジカップ・イン浜名湖」にスクール生を参加させ、スクール受講による技能向上の成果確認と次期目標設定を行いました。

(全国児童水辺の風景画コンテスト)

東日本大震災の被災地支援として、クレヨン、スケッチブックなど画材約320万円を公益財団法人日本財団を通じて、福島県の幼稚園、小学校、避難所等の子供たちに寄贈しました。当年度の絵画コンテストは、7月から9月に作品を募集し、46都道府県の保育園、幼稚園、小学校、絵画教室等より6,472点が寄せられ、入選作品331点を選出した予選会を経て、本選会にて文部科学大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞、農林水産大臣賞の4大臣賞、審査員長特別賞を含め、入賞作品39作品を決定しました。また、大臣賞受賞者に対しては、11月および12月に在籍校において表彰式を実施しました。

5、普及・振興事業

(指導者育成・指導レベル向上)

ジュニアヨットスクール葉山の指導内容の更なる充実に向け、日本体育協会指導員、日本赤十字社救急法救助員資格を取得するなど指導者レベルの向上に努めてきました。

(スポーツ教材提供)

スポーツの普及・振興、機会・裾野拡大の一助とすべく、小・中・高校、ジュニアスポーツクラブ、総合型地域スポーツクラブ等に対し、スポーツ教材の提供を当初予定していましたが、東日本大震災の発生を受け、急遽これを中止し、代わりに被災地支援としてサッカーボール、ドッジボール、長縄などの教材約300万円を第一次支援として日本財団を通じて、福島県の幼稚園、小学校、避難所等の子供たちに寄贈。続く第二次支援では文部科学省「こどもの学び支援ポータルサイト」の具体的な要望をもとに、跳び箱やマットなど21種類の教材約210万円を宮城県東松島市教育委員会を通じて、市内小学校4校に寄贈しました。

また、スポーツ教材を有効に活用している事例をホームページに掲載するなど、幼少期における運動の大切さを広く社会に啓発してきました。

6、調査研究・教材製作・競技会等運営事業

(スポーツ討論会の開催)

初の試みとしての今年度は、スポーツチャレンジ助成対象者(第5期生、第6期生)及びOBを対象に、一人ひとりが視野を広く、視点を高く、思考を深くする機会を通じて、レベル向上や意識向上を促進すべく、「語り」「学び」「考える」をテーマとした「第5回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング」を開催し、そのなかで、スポーツの本質を考える基調講演、自己のチャレンジと社会とのつながりを考えるスポーツ討論会、発想の転換を促す特別講演会を実施し、異分野交流も含め、参加者から好評価を得ることができました。

また、スポーツにかかわる人たちの取り組みの参考に資すること、及び社会のスポーツへの理解促進を図るため、討論会の概要などをホームページ等に掲載し、広く社会に情報発信しました。

(セーリング・チャレンジカップ・イン浜名湖の開催)

全国で活動するセーリングのジュニアクラブを対象に、セーリング技術を競い、また1年間のトレーニング成果や次年度の目標等を確認する機会として、「第20回セーリング・チャレンジカップ・イン浜名湖」を、3月26日から29日静岡県立三ヶ日青年の家を会場に開催し、全国から28クラブ87名のジュニアが参加しました。

また、東日本大震災の復興支援の一環として、ジュニアヨットスクール葉山の夏季合宿やセーリング・チャレンジカップへの被災地ジュニアの参加を支援してきました。

7、普及広報事業

(財団ホームページの充実と刊行物「Do the Challenge」の発行)

当財団の活動をより広く社会に公開し、スポーツ振興・スポーツ文化向上による社会活性に寄与するために、ホームページを通じて情報内容の充実を図りました。

具体的には、「チャレンジする尊さ」をテーマとするスポーツチャレンジ助成対象者のクロージアップレポートやスポーツチャレンジ賞受賞者の紹介、ジュニアヨットスクール葉山での子供たちの体験紹介、「スポーツ討論会」における講演の紹介、各種募集情報などを掲載してきました。

また、スポーツチャレンジ助成事業における、チャレンジャー(助成対象者)、OB、審査委員、事務局を結ぶ会報誌として、「Do the Challenge」(刊行物 A4・4頁)を10月、2月に定期発行し、相互の情報共有と財団活動への理解促進を図りました。